

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070102557		
法人名	社会福祉法人紀伊福祉会		
事業所名	グループホーム 紀伊てまり苑		
所在地	和歌山市西田井224番地		
自己評価作成日	平成22年10月1日	評価結果市町村受理日	平成22年12月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokohyo-wakayama.jp/kaiyosip/infomationPublic.do?JCD=3070102557&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症サポートわかやま		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成22年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な環境の下でお1人お1人生活歴を大切にしながら、その人の持てる力を発揮でき「自分でできた」という喜び自信回復に努めています。行事なども全員で会議を開いて「どのようにするか」を決めています。庭では四季の花や野菜作りを楽しみながらしていただき、積極的に地域へ出かけたり来ていただいたり「その人らしい暮らし」ができるよう取り組んでいます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>特別養護老人ホームやクリニック等がある敷地の一角にグループホームもあり、玄関へ続くアプローチには、住民のボランティアグループ「てまり会」の協力で季節の花が植えられている。地域との交流を大切にしている、地域住民にむけて介護教室を開催しており、建物内の清掃への協力を呼び掛けるなど、解放された事業所を目指している。入居者が地域の行事に参加し、コミュニティセンター内の図書館へ定期的に出かけ、日々有用感と生きがいを持てるように支援している。「自己決定」を重んじ、行事や外出の際は入居者間で話し合いを持って決めている。職員は笑顔とゆとりをモットーに、入居者の潜在能力を引き出せるように、さりげない見守りと自然な声かけでサポートしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会の一員として高齢者が安心して生活できる事を目指すという理念を作り、管理者・職員は理念を共有し実践につなげている。	独自の理念を分かりやすく箇条書きにして、事業所内のあちこちに掲示している。毎朝の朝礼や申し送り時に読み合わせをし、今日1日の目標を決めて全員で理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として受け入れていただけるよう努力しています。	地域の行事への参加や図書館への定期的な訪問、近くのスーパーへの買い物等、地域との繋がりを大切にしている。近所のボランティアの協力を得、ホームを開放して住民との交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の方の訪問時などに自然な形で理解に努めています。事業所主催の「認知症の理解」などの公開講座も開いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用者の日頃の状況や取り組みについて報告・話し合いをして、意見を頂きサービス向上に活かしています。	日頃の様子や行事、職員の異動などが報告され、本人の発言もみられる。紀伊支所長からは地域の情報が提供され、活発な意見交換の中から支所との協力関係が築かれている。	市の高齢者福祉課、介護保険課や地域包括支援センターの職員にも参加を働きかけ、情報提供を得るとともに、状況や課題を共有できることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいます。	法人全体では市の介護保険課との行き来が頻繁にあるが、グループホームとしての連携は必要書類の提出などに留まっている。	事業所の質の向上には、担当窓口である介護保険課との連携が不可欠である。グループホームとしての意見交換や情報提供の機会を設けて、更なる連携の構築を期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に施錠しないことはもちろんのこと、すべての職員が身体拘束について正しく理解して拘束しないケア取り組んでいます。	外部の研修を受けた管理者による伝達研修、法人内の研修やホームの勉強会により、身体拘束排除への取組を徹底し、抑圧感のない常に解放されたホーム作りに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	すべての職員は高齢者虐待防止関連法について学び虐待を見逃すことのないよう注意を払い防止に努めている。		

【事業所名】グループホーム紀伊てまり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は生活自立支援事業や成年後見制度について学びそういう方がおられる場合は活用できるように支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約又は改定等の際は家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等が訪問時も問題点がないか伺うようにしています。言いにくい事が言えるように第三者委員を公表しています。玄関には意見箱も置いています。	行事、外出などは入居者で話し合いを持ち、希望を聞いて決めている。行事の後で家族同士の集まりの場を設け、また家族の訪問も頻繁にあり、お互い顔を見ながら話せる関係作りに努めている。	家族の立場からは事業所に意見を言いくらい場合があることも想定しながら、些細なことについても声を集め、更に開かれた事業所となることに期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や勉強会を定期的に行い意見や提案を聞き運営に反映させています。それ以外に仕事中でも意見や提案があれば聞くようにしています。	管理者は、職員自身が心身健康で、ゆとりのある介護が入居者の笑顔につながる事を重視しており、日頃より相談や意見が言いやすく働きやすい職場作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員の努力や勤務状況を常に把握し給与水準や労働時間、やりがいなど各自が向上心をもって働けるよう職場環境条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者や職員一人ひとりのケアの力量を把握し法人内外の研修を受ける機会の確保や働きながらトレーニングしている事をすすめています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は同業者と交流する機会を持ち話し合い・相互訪問を行いサービスの質の向上をさせていく取り組みをしています。		

【事業所名】グループホーム紀伊てまり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まず、何が必要な支援なのかを本人・家族様とよく話し合い見極めて他のサービス利用も含めた対応を行なっています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入所者は共に食事の支度・買物・洗濯物をたんだりしながら一緒に生活している感覚を持ち自然に寄り添い喜怒哀楽を共にした時間を共有しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族とよく話し合い本人と家族の絆を大切にしながら共に本人を支えて行く関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人との交流やよく利用していた店へ買物に行ったり、墓参りや神社へ出かけたり馴染みの関係を大切にしています。	気軽に訪問できる雰囲気では来訪者も多く、家族旅行を共に計画したり、花見処や故郷・墓参りへの外出も個別に支援している。地域の話話を共有できるように入居者が購読する新聞の和歌山版をホームの壁に貼っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係をよく把握し一人ひとりが孤立せず利用者同士の関わり合いや支え合いができるよう支援に努めています。		

【事業所名】グループホーム紀伊てまり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅復帰や他所に移られるなどで契約が終了してもこれまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望を良く把握し自己決定を大切にしています。困難な時は本人主体に検討しています。	さりげない見守りと自然な声かけから本人の希望や意向を把握し、思いに沿った支援を心掛けている。話し合いを重視しており、野菜の植え付けにも入居者の意向を取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者・家族様から良く話しを聞くと共にセンター方式を利用し、これまでの生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別処遇を大切にし一人ひとりの有する能力や状況を総合的に把握するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回は医師・看護師参加のカンファレンス会議を持ち、本人・家族・関係者と話し合い、それぞれの意見を反映した現状に即した介護計画を作成しています。	半年ごとのアセスメントと毎月の担当者会議でのモニタリングで、希望に沿った個別の計画書が作られている。また、本人の状態は常に変化する事を頭において、現状に即した見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアノートを作り日々の実践・結果・気づきを記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・その時々々のニーズに合わせ、本人様を主体とする柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいます。		

【事業所名】グループホーム紀伊てまり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の 紀伊文化まつり へ参加したりコミュニティセンターの図書室を利用するなど地域資源を活用し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができる暮らしを支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切にし、適切な医療を受けられるよう支援しています。	敷地内の内科クリニックで主に診察・往診を受け、それ以外の受診は本人のかかりつけ医に家族が付き添っている。ホームでの様子は家族に伝えて、適切な医療への支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日常の中で捉えた情報や気づきを看護師に伝え個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院したときは、安心して過ごせるように時々お見舞いに行き、病院関係者と情報交換や相談に努めています。又、連携をし退院後スムーズに生活が始められる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時から終末期のあり方や希望を聞き、看取り伺い書に記入してもらい文書として残しています。重度化・終末期には家族の希望を聞き関わる多職種・家族で協働し支援に取り組んでいます。	入居時に重度化・看取り指針を説明し、職員も適切なケアへの研鑽を重ねている。医療連携でその時々本人と家族の希望に添えるように対応している。最近もホームでの看取りを終え、入居者、家族、全職員が家族のように一つになって支援できた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員全体が災害時に備えて勉強し、避難訓練を行っています。苑の建物は地域の避難場所にもなっています。	夜間も想定した避難訓練を行い、防火設備点検時には防災器具の使い方を習っている。運営推進会議で地域住民と災害対策について話し会った後、参加者と入居者が一緒に避難訓練を行っている。	

【事業所名】グループホーム紀伊てまり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は日頃から人権やプライバシーについて勉強し一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーをそこねない言葉かけや対応をしています。	見守りや自然な言葉かけに留意し、その人らしさを尊重してプライドを傷つけないように努めている。排泄介助では、直接聞くのではなく何気ない声かけをして、いつ誰がトイレに立ったのか分からないように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりが自分の意見を言える環境を作るとともにその人にわかるようにゆっくりと説明をし、自己決定が出来るように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて理美容店に行ったり本人の希望でお化粧をしたり、身だしなみやおしゃれができるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしています。	移動販売の魚屋から新鮮な食材を共に選び、また有用感を持てるようにメニューの選択・準備・片づけなども一緒にしている。昼食は職員と共に和やかに食べているが、大部分の職員は各自弁当を持参している。	同じ物を味わうことで、利用者の気持ちに寄り添い、コミュニケーションが深まることが期待される。できるだけ利用者と同じ食事をする機会が持てる工夫が望まれる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしています。		

【事業所名】グループホーム紀伊てまり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄のパターンをよく把握し、トイレでの排泄の自立に向けた支援・オムツはずしに取り組む支援をしています。	個々の排泄パターンを掴んで、毎月のモニタリングで支援経過を見ながら、その人に合わせた自立支援をしており、紙オムツの使用がなくなった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員はよく理解をし、日頃から水分を多く摂ったり食材にも配慮しています。又、運動不足にならないよう体操や散歩をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	楽しみながら入浴出来るように、職員の都合に合わせてではなく、入居者一人ひとりの希望に合わせた支援をしています。	午後の時間帯に、個浴や仲の良い人同士で楽しめるよう支援している。長らく入浴拒否した方にも、コミュニケーションを取って信頼関係を築いてからさりげなく声かけをし、一歩ずつ風呂場近づけるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに応じた休息や睡眠が安心して取れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師参加の、ケアカンファレンス会議でよく勉強しており、服薬の支援・症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や得意なことをよく理解し、やりたい事・好きな事をしながら、生き生きとした暮らしが送れる様支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるよう支援しています。本人の希望をよく理解し、家族や地域の方と協力しながら、墓参りや故郷へ行くことなどを支援しています。	菜園・花壇の散歩や近くの公園・神社にも出かけ、スーパーへ買い物に行ったりと日常的に外出支援を行っている。また新聞の広告にある食材を買い求めたり、高野山や足守り神社に参拝するなど、個人の希望に添えるようにも支援している。	

【事業所名】グループホーム紀伊てまり苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなどの交流をしています。電話は掛けたい方には支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は温かみのある色調で利用者が安心して居心地良く過ごせるような工夫をしています。共有空間居間の大きな窓からは光が降り注ぎ四季の移り変わりもよく感じられます。仲の良い人同士で過ごせる場所もあります。	陽当りのよい玄関脇や廊下の隅に一息つけるイスを置き、花を分け、ほどよく手作り作品や装飾品を飾って居心地良く過ごせるように工夫している。リビングは広く、4つのテーブルのうち、思い思いの場所で過ごしてもらるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりが思い思いに過ごせるような居場所を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人様が使い慣れた好みの家具などを置いて頂き、家庭生活の延長のように居心地良く過ごせるような工夫をしています。	ゆったりとした広さの居室は全室南向きで庭に面しており、周囲の田園風景が眺められる。各自、馴染みの家具や生活用品を置き、手作りカレンダーや写真で自分らしい部屋になるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのわかる力を活かして混乱や失敗を防ぎ自立して暮らせるように工夫しています。例えば日めくりカレンダーを作ったり、目の高さに表札を掛けて自室をわかりやすいように工夫をしています。		